

25S-am05

Chippiine 型アルカロイド Dippinine B の全合成研究

○財間 俊宏¹, 竹内 公平², 中山 淳¹, 難波 康祐¹ (¹徳島大院薬, ²北大院総化)

【目的】【方法】

Dippinine B (**1**)は、マレー産 *Tabernaemontana corymbosa* の茎より単離・構造決定された五環性インドールアルカロイドである。本化合物は、生物活性としてピンクリスチン耐性 KB 細胞に対する多剤耐性無効化能が報告されており、有望な医薬品リード分子として期待されている。

今回我々は、市販のアセト酢酸メチル **3** を出発原料とし、インドール形成、ラクタム化、Dieckmann 縮合による環化反応を連続的に行い、四環性モデル化合物 **2** の合成を検討したので報告する。

【結果】

市販のアセト酢酸メチル **3** から 3 工程の変換を経て、鍵反応前駆体 **4** を合成した。次いで **4** を接触還元 conditions に付し、インドール **5** を得た。続いて **5** に対し、ベンゼン溶媒中水素化ナトリウムを作用させることで 87%の収率でラクタム体 **6** を合成した。現在、Dieckmann 縮合による **2** への変換を検討中である。

